

2015年[平成27年]

2月18日[水]
大安

神奈川新聞創刊125周年特別企画 Vol.2

そして、未来へ。かながわ人に聞く。 ひと

TOP INTERVIEW

企画制作 神奈川新聞社 クロスマディア営業局

125th 神奈川新聞
地域をつなぐ、心をつなぐ

お父さまは東京・蒲田で「赤ひげ先生」と呼ばれ地域医療に貢献された方だそうですね。

父は東京・蒲田の小児科開業医でした。昔は病院が少なかつたので、毎日約400人の患者を診察して、さらに夜から友人の外科医と手術をすることもありました。夜中に急诊が来て起こることは一晩で最低5回はありましたね。「よし、わかった」と言つて、パジャマの上から白衣を着て診察する。父を見ていると、これ以上の仕事はないと思いました。今でもそう思っています。今どんなに

戸塚区を中心展開する当会三つの病院で合わせて月に約600件余りの救急患者を受け入れています。また開業医の先生など連携医療機関からの要請で患者さんを受け入れる一方で、重症の方は三次救急拠点病院、いわゆる高次救急の大規模病院をご紹介しています。そのためにも、普段から病院間での情報交換、ネットワークづくりが大切ですか

（法人内）地域医療連携課を設けて担当職員が各医療機関を回っています。組織を越え、同じ医療者として患者さんを中心に役割分担していくことが必要です。

医療は地域のニーズに応えられるかどうかが肝。時代の需要に合わせて、女性の専門外来や、小児科と耳鼻咽喉科を併設したクリニックなど、ここ数年間の戸塚駅西口の再開発に合わせて新設してきました。

また、東日本大震災から数週間後、岩手県災害対策本部の医療部門の総責任者からの要請を受け、災害医療支援チームを組織しました。中東などで国際医療支援をしている当法人の医師たちを中心としたチームで被災者の普段の健康管理のため、医療だけではなくリハビリテーションや食事提供なども支援しました。80日間で計130人が現地入りしました。今でも300人体制で定期的に訓練などを行っています。

ほかに、10年前から戸塚警察署と戸塚税務署の嘱託医として署内の

方々などの健康管理をしています。これも大事な医療機関の役割だと思います。

お父さまは東京・蒲田で「赤ひげ先生」と呼ばれ地域医療に貢献された方だそうですね。

One for All, All for One 病院間の連携が地域医療の肝

一人は皆のために、皆は一人のために



女子ラグビーチーム「YOKOHAMA TKM」と戸塚共立健康支援室メンバーと共に

日本は高齢化率がピークを迎える今後はどのような医療を展開されるのでしょうか。

2025年に向けて、時代によって変化する地域の需要をきめ細かくキャッチして分析していくなかで、医療を取り組みといった「トータルヘルスケアシステム」の確立が目標です。周辺の医療機関の状況も見ながら病院間でタイアップするといった共生共栄が大事です。そのなかで、私たちが必要とされている役割を充実させていくことが、健全な運営と安定した経営につながっています。

ラグビーでよく使われる言葉で「One for All, All for One」を掲げられていますが、どのように思いからでしょうか。
忙しくても父の仕事ぶりよりは大変じゃないと思うんです。

経営理念に「One for All, All for One」（一人は皆のために、皆は一人のために）を掲げられていますが、どういった想いからでしょうか。

横浜市二次救急拠点病院として、他の病院と連携しながら

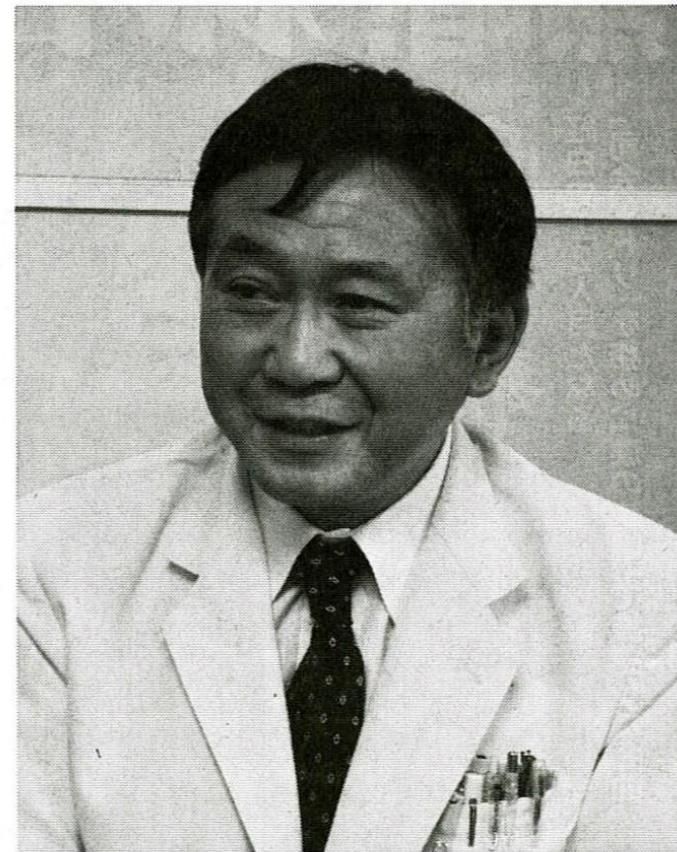
地域に根ざした医療に取り組んできた。同市戸塚区を中心

地域ニーズをくみ取りながら拠点を増やしていき、今では病

院やクリニック、介護施設、看護学校など計17カ所に上る。横

川秀男理事長に、地域医療機関としての思いや、今後の展望

などを聞いた。



医療法人 横浜柏堤会
理事長 横川 秀男 氏

横浜柏堤会のプロフィール

- 法人所在地: 横浜市戸塚区戸塚町116
- 設立年月日: 1946年5月
- 事業内容: 医療、介護、健診センター、看護学校、病児保育室、健康支援室などの運営
- 電話番号: 045-865-0900(本部)
- URL: <http://hakuteikai.com/>
- 運営施設: 戸塚共立第1病院、戸塚共立第2病院、戸塚共立リハビリテーション病院等17施設

理事長の横顔

ラグビーボールやサッカーボールが飾られた理事長室。医療法人初の女子ラグビーチームを結成したと聞いたが、やはり相当なスポーツ好きだ。大学リーグの試合や練習に立ち会い、選手が医師や薬剤師等として就職してくることもあるそう。「結果的に人材教育ですね」と笑う。「人の3倍は働く」とは職員評。しかし、本人は「ストレスはまったくない」。取材中、「貢献」「還元」といった言葉が幾度も出てきた。かといって、社会のために、と気負うふうでもない。次男らしいが、印象は頼れる兄貴分。そんな人柄が円滑な医療法人経営に生きている。